

編集後記

この度、『浄土真宗総合研究』第一七号を発刊いたしました。す。

本年は、三月二十九日から五期・三十日間にわたり、親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗八〇〇年の慶讃法要が勤修されました。

そこで今号では、親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗八〇〇年を機縁として、より宗門が「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献すること」（宗制）ができるよう、宗門外の他の研究領域との架橋を目的とした「学際性」をコンセプトとし、「脱領域の可能性―学際的研究―」をテーマとして設定いたしました。

「学際性」とは、一つの研究対象を複数の学問分野から研究することを意味した語であり、日本では「学際性」を掲げる研究論文が一九九〇年代以降に急増しました。

その背景については、既に様々な理由が指摘されていますが、問題の根底には、単一の学問分野のみでは課題を解決することができないという「学問そのものの在り方」に対する反省があります。

さて、このような意識が日本の各大学・研究機関に普及・浸透していくなかで、仏教学や真宗学の領域において

も、他の研究領域との交流が活発に行われるようになり、「学際性」を意識した研究が徐々にスタンダード化しつつあります。

そこで今号では、他分野・他領域の研究方法が駆使された、①岡崎秀麿「現代における寺院の社会的役割」、②野村淳爾「近江商人の人材育成・教育と本宅空間の機能―五个荘町の事例を中心に―」、③山口篤子「《真宗宗歌》の誕生―「懸賞歌」としてのイベント性に着目して―」、④那須公昭「第11回宗勢基本調査からみた本願寺派の過疎地寺院のいま」の四論攷を収載いたしました。

今号の成果が、読者の皆様、そして宗門にとって有益なものとなることを、編集者一同、強く願います。

浄土真宗本願寺派総合研究所は、本年度より「教団総合研究室」「教学伝道研究室」「仏教音楽・儀礼研究室」「東京支所」の三室一支所の体制から、「現代教学・課題研究室」「伝わる伝道研究室」「東京支所」の二室一支所の体制へと再編し、それぞれの専門性を活かした研究・調査・編纂の事業を継続しています。「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現」に向け、今後も、その成果を『浄土真宗総合研究』やさまざまな研修会・刊行物を通して公開してまいります。

（『浄土真宗総合研究』編集委員会）

浄土真宗本願寺派総合研究所 所掌事項一覧

1. 現代教学・課題研究室

- ・宗門運営の総合的研究及び宗勢基本調査に関すること
- ・現代的諸課題の調査研究に関すること
- ・総局が指示した教学諸問題に関すること
- ・他宗教の研究及び他の宗教団体との協力に関すること
- ・宗門教学会議の運営に関すること
- ・六条円卓会議の運営に関すること
- ・儀礼の研究に関すること

2. 伝わる伝道研究室

- ・現代に即応する真宗教学の再構築及び調査研究に関すること
- ・伝わる伝道の研究に関すること
- ・真宗聖典の普及に関すること
- ・ITとメディアを活用した伝道方法の研究に関すること
- ・過疎地域及び都市部における伝道並びに国際伝道の研究に関する
こと
- ・教学相談に関すること
- ・儀礼の普及に関すること
- ・仏教音楽の研究及び創作、普及に関することこと。

3. 仏教音楽・儀礼研究室

- ・勤式儀礼及び仏教音楽の研究及び普及に関すること。
- ・声明及び仏教音楽の創作及び演奏に関すること。

4. 東京支所

- ・首都圏における教学伝道の振興に関すること
- ・首都圏における思潮や情勢その他諸問題の調査、分析に関する
こと
- ・首都圏における宗教事情及び他の宗教団体の研究に関すること
- ・首都圏における教学伝道上の諸課題その他諸問題の研究及び対応
に関すること
- ・首都圏におけるITとメディアを活用した伝道方法の研究に関する
こと

執筆者一覧

- 岡崎 秀磨 (おかざき ひでまる)
浄土真宗本願寺派総合研究所 上級研究員
- 山口 篤子 (やまぐち あつこ)
浄土真宗本願寺派総合研究所 上級研究員
- 那須 公昭 (なす きみあき)
浄土真宗本願寺派総合研究所 研究員
- 野村 淳爾 (のむら じゅんに)
浄土真宗本願寺派総合研究所 研究員
-

浄土真宗総合研究 第17号

令和 5 (2023) 年11月20日 印刷

令和 5 (2023) 年12月 1 日 発行

編集・発行 浄土真宗本願寺派総合研究所

〒600-8349 京都市下京区堺町92

TEL 075-371-9244

FAX 075-371-5761

印 刷 合同会社自照社
